

ALS アミノ酸で進行?

全身の筋力が衰えていく難病、筋萎縮（いしゅく）性側索硬化症（ALS）は、脊髄（せきずい）でD-セリンというアミノ酸が過剰にできるために進行する可能性を慶応義塾大の相磯貞和教授らが示した。

D-セリンが患者の脊髄で増えていることを見つけた。増えたD-セリンは脊髄の運動神経細胞を必要以上に興奮させて、死滅させてしまおうと推定できた。さらに、培養細胞でD-セリンの働きを止めると、細胞死が抑えられることを確かめた。

（EMBOジャーナル）